新撰

小學修身書

文學社編纂

嘉言篇　五

東京圖書館

新書門

十二部

八類

函

架

號

冊

K110.1
184
5

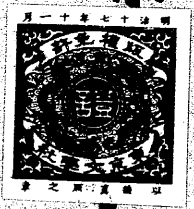
文學社編纂　嘉言篇

新撰

小學修身書

全十一冊

東京
大坂



文學社發兌

新撰

小學修身書卷之五

文學社編纂

第五章

○天照太神、皇孫瓊々杵尊に勅して曰、寶祚の隆はまさんこと、當に天壤と共に窮無るへし、日本書記

○北畠親房曰、天地の間に、唯我か皇國のみ、開闢以來、天孫統を承け、連綿として、今に至るまて絶ヘす、是國體の他に異なる所以なり、

○安積信曰、天下の善亦多けれとも、其要君臣父子夫婦長幼朋友の道に過きす能く得て失はさる、之を善德と謂ふ、能く行ひて戻らさる、之を善行と謂ふなり、

○松平定信曰、忠信孝悌は皆人の知る所なり、苟しくも聖經に因りて之を求めすは、其の忠とする所或は忠に非す、其の孝とする所或は孝にあらし、

○寶貨は、之を用るて盡ることあり、忠孝は、之を享けて窮なし、省心雜言

○中江原曰、人は孝經を以て眼目とし、志を堅ふし、心を定め、孝悌忠臣の四德を、行住坐卧の間に習ひ、怠らさるへし、

○君々たらすと雖、臣以て臣たらすはあるへからす、父々たらすと雖、子以て子たらすはあるへからす、古文孝經

○佐藤坦曰忠の字は己に責むへし、人に責むるなかれ、

○清の愛親覺羅曰、私情に狥ひて國憲を干すこと勿れ、微利を貪り

て、身家を忘るゝこと勿れ、

○孝を以て君に事ふれは、則忠に、悌を以て長に事ふれは、則順なり、忠順失はす、以て其の上に事ふ、孝經

○貝原篤信曰、孝は百行の本なり、故に人として孝ならされは、其の本先つ絶ゆ、他の善行良才ありと

雖、觀るに足らす、

○親に事ふる者は、上に居て驕らす、下として亂れす、衆に在りて爭はす、古文孝經

○伊藤維楨曰、人道は、親に孝に兄に悌なること、一日も無くはあるへからす、人として道を知らさる

ものは、禽獸なり、

○其の親に事ふるを觀て、其の君に事ふるを知り、其の家を治むるを察して、其の官を治るを知る、今文孝經

○己一衣あらは、必先父母に衣せ、己一食あらは、必先父母に食せしむ、童子習

○保科正之曰、兄を敬して弟を愛すべし、主を重して法を畏るべし、賄を行ひて媚を求むべからす、

○伊藤長胤曰、孝は知るべきなり、世の奇異にして、行難きを以て孝と爲るは、是孝にあらす、

○群児狂奔すれは、我は規矩を守

り、群児喧噪すれは、我は黙して語らす、童子習

○林友直曰、子弟となりては、威儀を正しくするを以て本とす、尊長の前にありて、咳呻、祖裼等、不敬の態を爲ること勿れ、

○貝原篤信曰、愛敬は人倫を守る道なり、父母に用ゐれは孝となり、兄に用ゐれは悌となり、尊長に用ゐれは順となる、

○幼にして學ふ者は、日出の光の如く、老いて學ふ者は、炳燭の明の如し、猶瞑目して見ること無きものに優る、顔氏勉學篇

○孝は德の始めなり、悌は德の序なり、信は德の厚きなり、忠は德の正しきなり、孔子家語

○子弟の書を讀む、大なれは、則名就り功成る、小なれは、則字を識り理を明らかにす、呂氏社學要畧

○几案は必整齊にし、堂室は必淨潔にす、程董學則

○佐藤坦曰、人事百般、總て遜讓を要す、但志は、師に讓らさるべく、又古人にも讓らさるべし、

○馬援曰、大丈夫の志、窮しては益堅かるべく、老いては益壯かるべし、

○食を節すれは疾なし、言を擇へは禍なし、禍の生するは、天より降るにあらす、皆其の口よりす、西疇常言

○石曰興長曰、孝は父母の心を喜はしむるを主とす、一家親睦するは、則これ孝なり、

○父母疾あれは、必躬親之に侍す、或は痛み、或は痒けれは、必之を抑搔す、童子習

○瑕なき玉は、以て國器とすへく、孝悌の子は、以て家瑞とすへし、省心

雜言

○佐藤坦曰、妄念を起さゝるは、是敬なり、妄念の起らさるは、是誠な

り、

○尾藤肇曰、疇昔の善は、恃む可からす、今日の過、當に察す可きなり、」

○新井君美曰、人の能を妬み、人の賢を拒むの念ある人は、假令萬卷の書を讀むも、其の身に切ならす」

○卜部兼好曰、我か能はさるを耻ち、人に教へを受さる者は、遂に成ることあるへからす、人の訾を耻す、人の笑を忍ふ者は大業をなす

○人の大病三あり、一に曰、麤惡、二に曰、輕浮、三に曰、昏弱、居業録

○宋の呂希哲曰、人生、内に賢父兄なく、外に嚴師友なくして、能く德

を爲す者はあらず、

○孔丘曰、衆の惡むをも必察せよ、衆の好みするをも必察せよ、

○人と論するには、須らく容貌從容、言語温厚なるべし、決して劇烈なるべからず、紳瑜

○遵生箋曰、惡人の賢人を害するは、天を仰きて唾を吐くが如く、其の唾天に至らずして、還りて自身に墮つ、

○陰德ある者は、必陽報あり、陰行ある者は、必昭明あり、韓詩外傳

○高景逸曰、意動けば即行ひ、思慮を其の間に加へざれば、忽ち不善

に入る、九の坂を下るが如し、誰か能く之を禦かん、

○此の心靜に定りて後明生す水の止るものは鑑す、流るゝ水は鑑す、からさるも、亦此の理なり、

讀書録

○貝原篤信曰、長生を好まは、養生の道を能く務むへく、善を好まは、學問を勉めて道理を知るへし、

○遵生箋曰、衣垢きて湔はす、器缺けて補はさるは、人に對して、猶愧る色あり、垢を行ひて湔はす、德缺けて補はす、天に對して豈愧る心なからんや、

○德川光國曰、樂は苦に根し、苦は樂に根す、

○佐藤坦曰、病を病むこと無き日に慎めは、則病なく、患を患無き日に患ふれは、則患なし、

○良藥は、口に苦くして病に利あり、忠言は、耳に逆ひて行に利あり、

孔子家語

新撰小學修身書卷之五終

K110,1

明治十五年十月五日版權免許
同　十七年十二月　出　版

定價壹圓

編纂兼出版發兌　文學社
東京本町四丁目十六番地

發賣　文學社支店
大阪本町三丁目十六番地